

土 第 658 号
平成 20 年 10 月 15 日

国土交通省道路局長 殿

砺波市長 安念鉄夫



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成 20 年 9 月 19 日付国道企第 37 号で依頼のあったこのことについては、
別紙のとおりであります。

(事務担当 土木課 牛古)

今後の道路行政についての意見・提案

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

様式①

富山県砺波市

社会資本の整備を進めるにあたり、限られた財源の中選択と集中により重点的に行う方向性は理解できるが、投資効果の額のみで評価されると地方の中小都市の整備は益々遅れ格差が一層拡大する。

地方は、森林・農地を保全し国民の憩い場となる良好な環境の創出やCO2の吸収等の役割を果たしており、このような効果も含めた評価手法の導入を検討していただきたい。

今後の道路行政についての意見・提案
②-1 地域の現状と抱える課題

様式②
富山県砺波市

現状

砺波市は家々が基石を散りばめたように点在する「散居」形態として全国的に有名な砺波平野の中心都市である。

市街地からは国道 156 号・359 号を始め県道等の幹線道路が放射状に延び、それらを連絡する市道が縦横に走っている。

昭和 48 年に北陸自動車道砺波～小杉間、翌年には砺波～金沢間が開通し県内で最も早く高速ハイウェイ時代を迎えた。

また、昭和 43 年の出町地区土地区画整理事業着手を皮切りに土地区画整理による市街地整備を進め現在用途地域の 6 割が整備済み若しくは整理中であり、郊外部については道路事業により国道、県道、市道の整備を進めている。

この結果、高度成長期には減少していた市の人口は昭和 50 年を境に増加に転じている。

課題

散居形態であり市域全体に市の人口が分散していることから、道路、下水道等の社会資本の整備コストが高くなる。

また、早期に開通した北陸自動車道の横断ボックスは都市計画道路以外当時の道路幅員で施工されている。

さらに市域を南北に縦断している JR 城端線の踏み切り拡張協議は踏み切りの統合を条件とされる。

このようなことから、環状道路等の道路改良や安全で安心して通行できる歩行者空間の整備は遅れており今後とも進めていく必要がある。

一方これまで整備を進めてきたストックの中でも一級河川庄川に架かる長大橋を始めとした多くの橋梁の維持管理更新が大きな負担となってくる。

また、着実に増加していた人口はここ数年停滞気味であり、今後大きく増加しないと推計されることから、地域の活性化には交流人口の増加を図る必要がある。

今後の道路行政についての意見・提案
②-2 地域の目指すべき将来像

様式③
富山県砺波市

平成 16 年 11 月旧砺波市と旧庄川町が合併し新たな砺波市が発足し、平成 18 年に新砺波市総合計画を策定した。市の目指す将来像として「庄川と散居に広がる健康フラワー都市」を掲げ、これを実現するため五つの基本方針を定め、その一つの「庄川と散居に広がる快適なまちづくり」の中で、次のとおり施策の大綱を示している。

機能的な都市基盤の整備

○ 道路交通網の整備

- ・ 高速道路や国道の整備促進、県道の未整備区間の早期整備の要請とともに、市道幹線道路の計画的な整備を進める。
- ・ 高齢化社会に対応し、歩道のバリアフリー化など交通安全施設の充実を図る。
- ・ 高速道路の機能をより活かすための施設整備について、協力支援する。

○ 都市基盤の整備

- ・ 県西部の高速交通網の要衝である利点を活かし、市街地の土地区画整理事業や街路事業などを計画的に進め、コンパクトで利便性の高い調和のとれた住みよいまちづくりを行う。

○ 公共交通の充実

- ・ 北陸新幹線の開業などを視野に、市民が利用しやすい機能的な公共交通の充実に努める。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

様式④
富山県砺波市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力、防災性の向上	・北陸自動車道砺波・小杉間のスマートインターの設置	・交流人口の拡大と都市交通の利便性向上	
	・国道 359 号砺波東バイパスの整備	- 企業誘致の促進 - 高岡市の防災センターの機能向上 - 広域観光、商業面での利便性向上	
・少子高齢化社会に対抗した子育て環境の整備	・東海北陸自動車道の全線四車線化	・庄川左岸地域の開発誘導効果	
	・中神地区土地区画整理事業	・東海地方との交流拡大と災害時応援協定締結都市との連絡強化	
	・市道小杉狐島線、千保線交通安全施設整備事業	・市立砺波総合病院と区域内の大型ショッピングセンターを活かしたまちづくり ・小学校通学路の歩道新設	
・バリアフリー社会の形成	・国道 156 号金屋自歩道整備事業	・交通量の多い国道周辺住民の安全確保	
・自立した地域づくり	・上中野 4 号線	・合併した両市町の市街地を結び、地域の振興と 2 次医療圏の中核病院である市立総合病院へのアクセス向上	